



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：アブドラ国王、新皇太子にサルマン王子を指名

湾岸地域の経済・金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

新皇太子にサルマン王子

6月16日、療養先のジュネーブで死去したナエフ皇太子（78歳）の後継者として、アブドラ国王は、18日の葬儀直後、サルマン国防相（76歳）を指名した。

サルマン国防相はサウジアラビア建国の祖アブドルアジズ初代国王の「第2世代」に属する王子であり、故ファハド第5代国王、故スルタン皇太子、ナエフ皇太子と共に「スデイリ・セブン」と呼ばれる有カ一族の兄弟の一人。アブドラ国王とは異母弟にあたり、皇太子就任により同国 No. 2 の地位に就いた。

また、ナエフ皇太子が兼務していた内相のポストにはサルマン王子の実弟アハマド内務副大臣が昇格する人事が発表された。

ナエフ皇太子死去によるサウジ内外への影響

ナエフ皇太子の死去はサウジ内外に大きな影響を及ぼすことになると思われる。国王と新皇太子による新体制の動向が注目を浴びている。具体的には、

- (1) アブドラ・サルマン体制での後継者の序列がどうなるのか。いよいよ、第3世代の時代に入るのか。
- (2) ナエフ皇太子は内相として、約13万人で構成される警察組織や治安部隊を動員し、国内の治安・テロ対策を仕切り、“アラブの春”の高まりと共に、政情が不安定化しているエジプト、バハレーン、イエメンなど近隣諸国との外交を主導してきた。今回の死去により、大きな政治的空白が生じることはないのか。
- (3) アブドラ国王の政治・社会改革路線は国内的には、必ずしも一枚岩で実行されてきたわけではない。ナエフ皇太子を支持した伝統的な保守層、特に宗教界とどう折り合っていくのか。

ナエフ皇太子が残したかかる重き遺産を背負い、世界最大の産油国サウジアラビアは新たな体制の下で船出しようとしている。

アブドラ国王によるサルマン王子の皇太子指名の狙い

アブドラ国王は、2005年に即位して以来、政治、社会、宗教、経済、教育、女性の権利など、これまでにない改革を進めてきた。国王は、将来を見据え、サウド王家による統治を大前提とした改革を在位中に継続したいと考えている。そのためには、第2世代のプリンスの中で、実力・調整能力・人望もあるサルマン王子と組んで、次世代(第3世代)へのスムーズな権力移譲を望んでいるようだ。国王や皇太子の選出方法(36人の有力王族による秘密投票)を定めた「忠誠委員会」を2006年に設立し、特定の王族による権力独占を防ぎ、第3世代の王族達に国王への道を開いたのはアブドラ国王の発案であったと言われている。

これまでの皇太子人事にあたり、アブドラ国王は国内の権力闘争の中で困難な舵取りを求められ、ステイラー族の実力者であったスルタン国防相やナエフ内相を皇太子に据えざるを得なかった。しかし、今回、国王は、迷うことなく、異例の早さで、サルマン王子を皇太子に指名した。健康不安を抱える国王(88歳)は、サルマン王子の皇太子指名と同時に、副首相と国防相を兼務する人事をも行った。

サルマン皇太子の経歴など

(1) 生年、出身地及び年齢

1935年12月31日、リヤド生まれ。76歳。

(2) 出生

アブドルアジズ国王とハッサ・ビント・アフマド・アル・ステイリの間にも生まれた7人の王子(ステイリ・セブン)のうち6番目。7人のうち存命なのは、サルマン、アハマドを含め4人。

(3) 教育

兄弟と共にサウジ国内で伝統的な宮廷教育を受けた。

(4) 職歴

- ・1955-1960 リヤド州知事
- ・1963-2011 リヤド州知事
- ・1999/7-9 ファハド国王がスペインにて静養中、サルマン王子もずっと同行しており、実質的な「国王名代」という役割をはたしていた。

- ・2011/11 国防相
- ・その他各種慈善団体、財団・基金の理事長に就任。

(5) 王族内の地位

- ・首都リヤドとその周辺はサウド家の本拠地として重要な意味を持っているが、リヤド州知事という資格で、リヤドの都市開発や治安維持に大きな役割をはたした。
- ・実兄で第5代ファハド国王に最も近い人物といわれた。このことがサルマンの政治力を一層高めることにつながった。

・個人資産の気前の良い振る舞いにより国内で最も人気のある王族の一人。また、高潔であることも人気のある理由で、この点ではアブドラ国王と同様である。

(6) 外交路線

- ・首都リヤドで開催される首脳会議に参加したり、各国元首や外交団と会っている。
- ・サルマンの外交センスに対し、欧米諸国の評価は高い。
- ・国防相として、2012年には米国や英国を訪問。
- ・中東の安定には、イスラエル・パレスチナ問題の解決が必要との立場をとる。

(7) 石油政策

ファハド国王に近かったことで、石油政策決定に直接・間接に関与していた。

(8) 軍事

- ・サウジ軍の近代化を推進中。
- ・特に、空軍力の近代化には米国や英国からの新鋭戦闘機の購入、訓練機の購入とパイロットの技量向上を計画。

(9) 家族

サルマンの息子達は他の第3世代の王子達に比べて愛国心に富み、クリーンな経歴を持っているとされる。これは、父親サルマンの国王即位を展望してのことといわれている。息子達の中で知られているのは次の3人。

- ・スルタン(55歳)：シラキューズ大学修士。元宇宙飛行士(1985年、ディスカバリー号に乗船)。最高観光遺跡委員会事務局長。
- ・アブドルアジズ(51歳)：石油鉱物資源省次官、ファハド国王石油鉱物資源大学修士。
- ・ファイサル(42歳)：オックスフォード大学博士。キング・サ우드大学助教授(政治学)を経て、投資会社Jadwa Investment社の会長。2007年、外務省の招待にて来日。

(10) その他

サウジ閣僚の中で、国際金融行政の実務経験が豊富で、温厚かつ敵の少ないイブラヒム・アサフ財政経済相(62歳、ナジュドの豪族出身)はサルマン王子に近いといわれる。